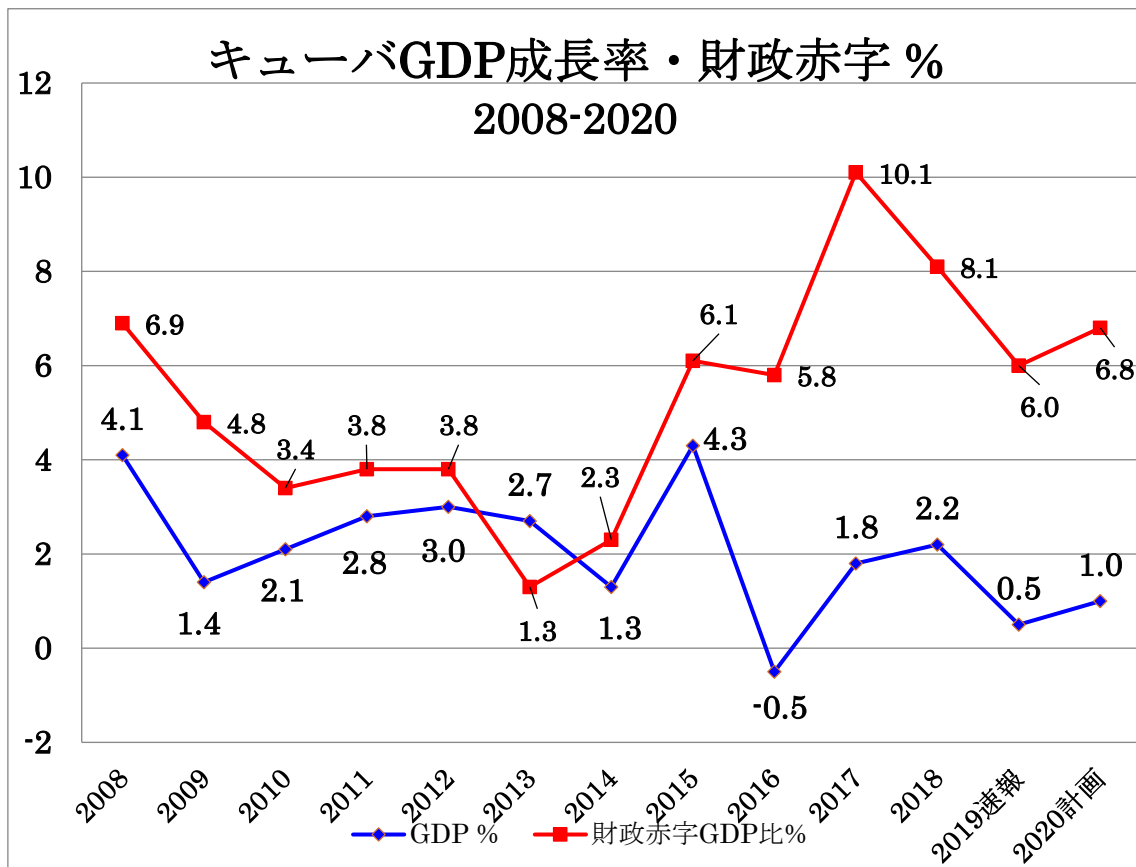


キューバ、新型コロナウイルス感染拡大経過報告記 (1)

3月、キューバ経済研究所（CEEC）が開催する経済セミナーに参加するため、調査も兼ねて、一年振りにキューバを訪問しました。キューバは、近年悪化する外貨不足、トランプ政権によるキューバ経済の息の根を止めようとする経済制裁の強化などによるモノ不足（特にトイレット・ペーパー、衣料洗剤、シャンプー、歯磨き粉など衛生用品）が報道されていました。キューバの新型コロナウイルス感染問題は、こうした厳しい経済事情の中で飛び込んできた問題でした。以下、キューバ政府がどのように新型コロナウイルス対策に取り組んでいるか報告します。

(グラフ1 GDP成長率・財政赤字の推移)



出所：特に記した以外は筆者が各種資料により作成

◎水際作戦を強化するキューバ

3月2日夜、日本から、トロント経由で無事ハバナに到着しました。ハバナでは、新型コロナウイルス感染者まだ出ていませんでしたが、政府は、懸命に水際作戦をとっていました。トロン

トでは、空港内の関係者はほとんどマスクをしていませんでしたが、ハバナには、夜半の 11 時 50 分到着しました。空港内の係官は、全員緑のマスクをしていました。入管では、係官が日本からという、深刻な顔をして、別な用紙に手書きでなにか詳細に記入していました。税関の前の検疫所では、公共保健相（MINSAP）の係官が、入国者（アジアから）の頭部に体温計を当てて、所定の用紙に、宿泊所の住所など必要事項を記入し提出するように指示していました。筆者も頭部に光を当て体温を測り、常温でしたので、問題なく通過しました。その間 5 分程度。



ところが、翌 3 月 3 日午前 9 時、MINSAP の係官が早速宿舎を訪ねてきて、宿舎の衛生状況を調査し、72 時間以内に近くのクリニック（ファミリー・ドクター）に行くよう指示がありました。入国からわずか 8 時間、非効率が少ないキューバでは、珍しい超迅速の措置でした。3 月 5 日には、早朝に宿舎近く（2 ブロック先）のファミリー・ドクターを訪問。クリニックに行くと、MINSAP から連絡が来ていて、健康状態など問診があり、観察期間の 14 日間に問題があれば再度来るようにとの指示があり、5 分で終わりました。

それもそのはず、すでに、キューバ政府は、コロナウイルス対策を 1 月 31 日の閣僚評議会で、「コロナウイルス予防・管理計画」を討議し承認していました。それは、キューバへのコロナウイルスの侵入を防ぐため、空・海路で強い水際作戦を取るというものでした。そのため対処策を検討するワーキンググループが設定されました。この時、世界では、15 カ国で 5,000 人の感染者が報告されている中でした。

3 月 5 日午前、共産党政治局会議が開催され、それにもとづき、閣僚会議執行委員会が開催され、コロナウイルス対策を協議。同日午後閣僚会議特別会議が開催され、キューバ政府は、新型コロナウイルス予防・管理計画を改定しました。この時、世界では 80 カ国で 95,315 人が感染し、死者は 3,282 人に達していました。米州では、米国 159 人、カナダ 33 人、エクアドル 10 人、メキシコ 5 人、ブラジル 3 人、チリ 3 人、ドミニカ共和国 1 人、アルゼンチン 1 人が感染していました。

3 月 9 日、キューバ政府は、キューバではコロナウイルス感染者は未発症だが、コロナウイルス COVID-19 対策全国計画を発表しました。感染者・感染容疑者隔離用に 3,100 床を準備したと発表しました。この時、世界 100 カ国（米州では 12 カ国）で 109,695 人が感染、3,811 人

が死亡していました。TV では、国民向けに感染を防ぐ方法、自宅でマスクを作る方法を詳しく放送しはじめました。TVでは、帰宅すれば、石鹸を使って20秒以上、手を洗うよう勧めています。十分石鹸がない家もあり、水不足の家もあります（本年キューバは干ばつに見舞われており、例年の61%の降水量です）。とはいえ、国を挙げての全力の対策をとっているのは、キューバらしいところです。

◎最初の感染者出る

3月10日、キューバではまだコロナウイルスの感染者は出ておらず、マスクも医療関係、空港関係者以外はだれもしていませんでした。街中でもマスクをしているキューバ人は見られません。TVでは感染をどう防ぐか、手を20秒洗うことなどキャンペーンをしています。しかし、この日、ついに最初の感染者が出ました。9日にハバナに到着したイタリア人観光客4人のうち、3人が東部の観光地トリニダード市に移動し、そこで高熱の症状が出て、医師の診察、PCR検査を受けたところ、コロナウイルス感染者として確認されたものです。直ちに隔離され、処置を受けているが、重篤ではないとのこと。

12日、ディアス＝カネル大統領は、コロナウイルス対策会議を緊急招集し、対策を協議しました。翌13日、第2症例目が発生。イタリアに住むボリビア人の妻が2月24日キューバに帰

国し、キューバ中央部のサンタクララで夫と住んでいたが、夫が発症。妻は検査の結果陰性でしたが、夫が陽性。キューバ人もさすがに神経質になってきて、乗合バスにはマスクをした人も少し出始めました。筆者も握手とか、ハグの挨拶はしないことにしました。肘で挨拶する程度です。テレビでは、家庭でマスクを作る方法を放送しています。外貨に窮するキューバがマスクを



緊急輸入するのは大変です。この日、キューバでは、コロナウイルスで、259人が隔離観察入院。うち90人が外国人、169人がキューバ人でした。

14日の土曜日、ハバナの旧市街の歩行者天国がどうなっているか行ってみました。世界的なコロナウイルスの問題で、例年同期に比べ、人通りが20～25%程度（外人がほとんど）少ないように見えました。1月は観光客が19%減少でした。これでは、年率では外貨収入が6～7億ドル減少（サービス輸出の10%程度）になり、外貨準備が底をついているキューバには大きな痛手です。市民の生活は、モノ不足が昨年より一層悪化しているように見えます。スーパーにも、トイレット・ペーパー、石けん、シャンプー、歯磨き粉、衣料洗剤、コーヒー、鶏肉など不足しています。ハバナ郊外の外交官が主に行くスーパーにも行きましたが、肉類

はゼロ、棚は、30%程度しかモノがありませんでした。90年代の非常時の際は、ほとんどのモノがあったスーパーでしたが。モノ不足もあらゆる商店で30%程度しかモノがなく、今後どう経済を運営するのか、見通しがたちません。モノ不足で、マスクどころではないようです。トイレット・ペーパー、石けん、洗剤、鶏肉がスーパーに入れば、直ちに長い列ができます。民間レストランから頼まれた人、転売して儲けようとするものまでもおり、一般の人びとには大変骨の折れる買い物です。キューバ経済は、困難にも困難で、90年代のソ連崩壊の後の非常時を想起させますが、その時は、食料不足で視力が落ちる病気がはやりました。しかし、現在は、民間レストランがあり、金がある人はそちらで食べられます。また計画停電は、観光客が25,000以上の民泊にいますので、できません。市民の不満は小さくありません。米国の制裁圧力、航空便の削減、コロナウイルスによる観光減、観光収入減、資材の緊急輸入で、10億ドル程度の損失と筆者は計算しています。キューバ経済は、今年目標は1%ですが、GDPを1%近く押し下げるとはではないでしょうか。



◎イギリスのクルーズ船の寄港を許可

16日、ハバナ市で、新たに5人目の感染者が出ました。3月8日にスペインから帰国したキューバ人です。毎日の発症感染者は、MINSAPの発表で、TV、新聞で名前は伏せたものの年齢、性別、居住区名、感染経路が詳細に透明性をもって報道されています。

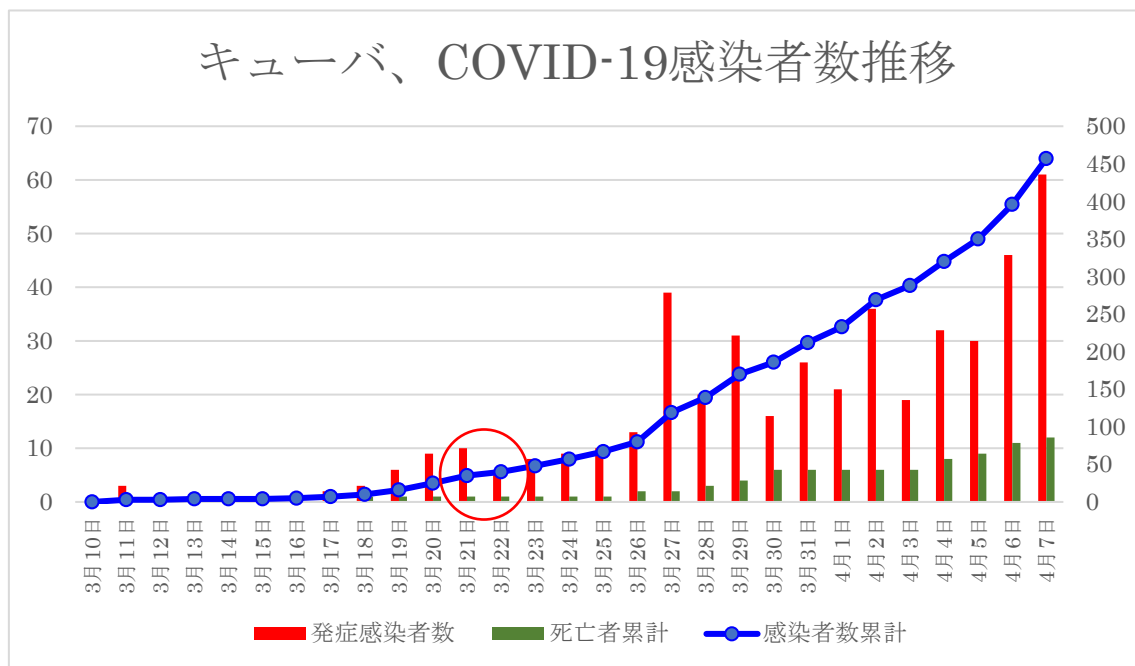
この日、キューバ政府は、カリブ海諸国のすべての国で寄港を拒否されていたイギリスのクルーズ船ブレイマー号のハバナ寄港についてイギリス政府の要請を受け入れると発表。人道主義とそれを受け入れる医療体制のインフラがある



からでしょう。医療制度の現実、薬が不足するものも少なからずあり、医療資材も不足するものもあります。決してキューバの医療体制の現実が万歳というわけではありませんが、政治的な影響も考えての英断でしょう。キューバは、当然ですが、イギリスから港湾使用料など200万ドル受け取りました。このクルーズ船の寄港については、市民の間では、人道問題

で連帯の精神として当然の措置（タクシー運転手男性 30 代）というものから、食べるものもないのに、そのようなことをする余裕はない（事務職員 30 代女性）まで、様々でしたが、概ね、当然の行為と捉える人が多いようでした。18 日クルーズ船は、ハバナ西部のマリエル港に寄港し、イギリス政府のチャーター機 4 機で、乗客・乗組員 1000 人余が、ハバナ空港から直ちにイギリスに移送されました。

(グラフ 2 キューバ、COVID-19 感染者数推移)



出所：キューバ公共保健省発表の資料から、筆者作成

<註>隔離者には、PCR 検査で陽性と判定されたもの、感染容疑者、感染者と濃厚接触をしたもの、ウイルスに触れた可能性が高いものが適用されています。

3月17日、新たな感染者が2人出て、累計7人に達しました。引き続き18日には感染者が3人出て、合計10人となりました。しかし、感染者は、すべて外国からの帰国者で、キューバ人同士の感染はありません。この日、9日に感染が発表されたイタリア人3人のうち1人が死亡、最初の犠牲者でした。翌19日には、カナダ人訪問客の感染者が1人出て、累計感染者は11人となりました。この日、共産党政治局は、コロナウイルス対策として、大規模な人々の密集を防ぐため、今年の全国の行事・イベント計画の修正を決定、中止、延期など個別に検討されることになりました。期待していたキューバ経済研究所の23~25日のセミナーも中止となりました。

	感染者数累計	発症感染者数	死亡者累計	死亡者
3月10日	0	0	0	0
3月11日	3	3	0	0
3月12日	3	0	0	0
3月13日	4	1	0	0
3月14日	4	0	0	0
3月15日	4	0	0	0
3月16日	5	1	0	0
3月17日	7	2	0	0
3月18日	10	3	1	1
3月19日	16	6	1	0
3月20日	25	9	1	0
3月21日	35	10	1	0
3月22日	40	5	1	0
3月23日	48	8	1	0
3月24日	57	9	1	0
3月25日	67	10	1	0
3月26日	80	13	2	1
3月27日	119	39	2	0
3月28日	139	20	3	1
3月29日	170	31	4	1
3月30日	186	16	6	2
3月31日	212	26	6	0
4月1日	233	21	6	0
4月2日	269	36	6	0
4月3日	288	19	6	0
4月4日	320	32	8	2
4月5日	350	30	9	1
4月6日	396	46	11	2
4月7日	457	61	12	1

この日までの感染者数の推移は、（表 2）通りですが、筆者は、今後感染者数が飛躍的に増えると予感し、予約していた 3 月 30 日のカナダ航空のハバナートロント便がキャンセルされるのではないかと危惧。カナダ航空の事務所に直接行き、状況を聞くと、「現在のところ予定通り飛行する」とのことでした。しかし、午後には、感染者はさらに 5 人増えて、合計 16 人となりました。ネットによれば、世界で 6 割近い航空便が運航中止となっているとのことでした。夜半、感染者が 16 人に達したとのニュースを聞いて、これは飛ばなくなるなど思い、翌 20 日朝早く、カナダ航空の事務所に再度行き、状況を聞くと、25 日からすべてのカナダ航空のハバナートロントは飛ばなくなるとのこと。最も早い便の予約を依頼し、空席を探してもらい 23 日発の便に変更できました。



◎コロナウイルス対策第1弾を発表

この日、コロナウイルス感染者は9名増え、25名に達しました。夕方6時テレビの一斉放送で、ディアス＝カネル大統領、マレーロ首相、公共保健相、国内商業相、労働・社会保障相など関係閣僚が出席し、新たな制限政策を発表しました。

ディアス＝カネル大統領は、キューバは、全国計画を次の3段階と想定すると発表しました。

第1段階：流行前、あるいは第1フェーズ。感染国からキューバに到着した人の感染、あるいはこの人に密接に関係した感染。キューバは、現在この段階。

第2段階：限定的な国内感染。感染国からの訪問者との直接の関係が確定されない例。ほとんどの場合、国内の一地域の小グループ、一定の一機関、センターに限定される。

第3段階：流行病：より複雑な段階。キューバ訪問者との関係が確認されず、国内の各地で症例が増加する。パンデミック曲線で頂点が現れる。

ディアス＝カネル大統領は、TV放送の中でコロナウイルス対策第1弾として、次の大枠の方針を説明しました。

- 感染を減少させるために水際作戦を強化し、24日以降、キューバ人、キューバ在住の外国人以外の入国を禁止する（外国人観光客の受け入れを禁止する）、カナダ航空も24日からトロント行きを中止する
- 弱者を保護するため、ソーシャル・ディスタンスを実施する。若者は、両親、高齢者に感染を移さないよう心掛けなければならない。健康にすぐれないものは自宅に留まること。これはキューバ人の性格から難しいことだが、必要なこと
- 在宅勤務、テレワーク、オンライン授業を進める
- 不要不急な外出を避け、食料・医薬品の買い付け、手続きに絞ること
- 密集、旅行を避け、公共輸送のラッシュアワーを避け、社会的イベントを中止すること
- 家庭・職場訪問監察を開始した
- 手を良く洗い、人との間隔を1メートル空けること
- パンデミックに伴う制限による労働の配転、感染者の賃金の対策、国営企業、民間部門の税金対策などの一連の経済対策を実施する
- 国民に情報を最大限提供する

マレーロ首相は、次の政策を発表しました。

- 通常の商活動は維持される
- 従い、貨物輸送の航空機、船舶は維持される
- 現在、60,000人の外国人旅行者がキューバに滞在しているが、一日13,000人ペースで出国する予定。そのための航空機の到着は認める。対策の期限は30日とするが、事情により延長はありうる

- ホテルも全面的に閉鎖される
- 貿易は維持されるが、国は大きな影響を受け、閉鎖された工場もある

ディアス国内商業相は、次の政策を説明しました。

- 全国 144 箇所で消毒用に次亜塩素酸ソーダを販売するために増産する
- 全国 151 の工場マスクを製造する。資材の提供を国民に呼びかける
- 飲食店で、テーブル間隔を 2 メートル空けるために、収容人員を半分にする
- 家族支援制度において、受益者は、昼食、夕食を持ち帰ることができる。また家庭に届ける方法も導入する
- キャンプ、国内観光目的でのホテルの宿泊を禁止する。映画、演劇、国営、民営を問わず夜間の活動を禁止する。

ボラーニョス財政・価格相は、納税面で次のように明らかにしました。

- 自営業者は、政府の指示あるいは自らの意志によるものであるにせよ、営業を行わない場合、納税の義務を逃れる。
- 自営業者は、社会保障費の納入については支払い延期を認められるが、年金の権利を維持するために支払いをする。
- 飲食店の収容人員を 50%減らすことから生じる、収入減を考慮して毎月の税金の納入額も 50%減額する
- 観光地においては、個人所得税について基礎行政府は、減じることができる。またその他の税の支払いの減額も認められる
- アーティストの納税も、支払い延期が認められる
- 国営企業は、影響を受けた企業は、納税額が減額される。賃金の保障を受けている労働者は、個人所得税、社会保障費の納入を免除される

フェイトー労働・社会保障相は、コロナ問題による影響から、労働者を保護するための政策を次のように、詳細に説明しました。

- テレワークは、労働者を保護する方法である。テレワーク労働者への賃金の支払いは変わらない
- 労働が遮断された場合、労働力を必要とするところへの労働者の配転を考える。配転が不可能な場合、最初の 1 カ月は 100%、次から 60%の賃金を支払う。
- 企業の成果主義賃金は、条件が許せば継続する。そのための基準を制定する。成果主義賃金の支払いが不可能な時は、基本給の支払いを行う。
- コロナ感染の入院者は、賃金平均の 50%相当の補助金を受け取る。入院していない場合は 60%を支払う。
- 被雇用者が呼吸器疾患の兆候があるときは、雇用機関は労働をせず、医者に行き、医者から証明書をもらうよう命じる権利がある。
- 補助金の支払いは、保健当局の発行した証明書の提出があれば行われる。
- 当局で承認され、個人的理由で外国にいる労働者は、旅行制限で帰国できない場合は、解雇されない。本人あるいは家族の申請により、外国の滞在許可期間が延長される

- 業務を継続する自営業者は、国の最低賃金以上の賃金の保護を受ける。その場合、雇用者は、労働期間に応じて被雇用者に労働法が定める賃金を支払わなければならない。
- 業務を継続しない労働者は、一定期間のライセンスの停止を申請できる。
- 自営業者が外国におり、業務が特定の労働者に委託されている場合、この労働者は引き続き業務を継続できる
- 政府の措置により収入が不足するにいたった家族は、家族人数に応じて、社会扶助を受けられることができる
- ソーシャル・ワーカーは、弱者家族を優先的に扱わなければならない。

全体的には、実質的にすべての観光客の入国を禁止するもので、観光関係の影響で年間、観光収入は 20 億ドル（15%）以上の減収となります。泣いて馬鹿を斬る切の感じです。そうではなくとも大変苦しいキューバ経済に厳しい影響を与えるものです。GDP を数パーセント押し下げるものとなりそうです。私個人としては、危うく滑り込みセーフでした。

この日、国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会（CEPAL）は、2019 年の経済成長を、速報値+0.1%、2020 年+1.3%と予測したが、コロナウイルスの影響で、-1.8%と予測を修正、失業は 10%増え、貧困人口は人口の 35%、2 億 2000 万人に達すると発表しました。

21 日には、感染者は 10 人増え、累計 35 人に達しました。政府は、現在キューバで民泊に滞在している 11,640 人の観光客にできるだけ早く出国するように勧め、レストランやカフェテリアは、閉鎖しないまでも、収用を 50%減らし、密集を避けるよう指示しました。またすべてのリクリエーション活動、スポーツ活動の中止、バー、キャバレー*の営業、映画、演劇の禁止を指示しました。会議は最小限の人数による必要不可欠なものに留めるように勧告しました。政府の対応は、感染の爆発を避けるため、スピード感あるものでした。この時、世界では、157 カ国に感染が広がり、242,488 人が感染し、死者は 9,885 人、致死率は 4.08%に達していました。キューバでは、感染者数 25 人、PCR 検査件数 296 人、経過観察隔離者数 716 人（うち外国人 205 人、キューバ人 511 人）、うち感染容疑者 389 人、28,139 人がホーム・ドクターによる観察下にありました。*現在のキューバのキャバレーは女性の接客はなく、歌と踊りを見ながら食事するレストランとなっています。

◎各国の要請に応じて 14 カ国に医療団 593 人を派遣

22 日には、コロナウイルス感染者が 5 人発生し、累計 40 人に達しました。キューバでは、この日 1,036 人（そのうち感染容疑者は 531 人）が隔離されており、37,788 人が自宅で経過観察下にありました。

そうした中で、21日キューバ政府は、医療崩壊に直面するイタリア政府の要請に応じてコロナウイルスの治療に専念する36人の医師、15人の看護師を派遣しました。キューバ政府は、この他にもアンゴラ256人、グレナダ5人、スリナム51人、ジャマイカ140人、ベリーズ58人、アンティグア・バーブーダ26人、セントビンセント・グレナディーン16人、ドミニカ国32人、セントルシア113人、ハイチ24人、セントクリストファー・ネイビス34人、アンドラ39人、ベネズエラ（常駐2万人の他コロナ対策として142人）、ニカラグア（5人）など14カ国に593人の医師、看護師などの緊急医療関係者を「ヘンリー・リーブ」*コロナウイルス対策医師団として派遣しています（4月2日現在）。



*ヘンリー・リーブ（1850~1876）とは、キューバの独立運動に参加した米国人の名前です。

このことを可能にしているのは、キューバには、95,000人の医師（1000人当たり9人の医師）と84,000人の看護師がいるという厚い医療スタッフと、アフリカでのエボラ熱(2014-2015)、ハイチでのコレラ、パキスタン(2005)、ネパール(2015)などでの災害医療協力などの文化と歴史があることです。米国国務省は、各国へのキューバの医師派遣は、医師の奴隷労働支持することになるから、受けないように圧力をかけています。しかし、協力の内容は公開されていませんが、派遣先国から医療サービスとしての支払いをキューバ政府は受け、派遣関係者にはキューバでの賃金の他、サービス収入の20~30%が支払われており、米国国務省が批判するような奴隷労働ではありません。

4月3日、G-20首脳特別会議共同声明に対して100カ国余の230の政党が賛同を表明していますが、キューバ共産党も国民の生命と健康を救うためには、協力、平和、世界の安定がなによりも必要だとして、賛同を表明しています。

3月22日、コロナウイルス感染者5人が発生、累計感染者は、40人に達し、23日、感染者8人が発生、累計48人に達しました。筆者は、早朝2時に起き、3時半に宿舎を出て、4時に空港着。カナダ航空便は7時発なのに、すでに長蛇の列ができていました。私の前の二人は空席待ちで並んでいるとのこと。しかし、やはり市内のカナダ航空事務所に行かなければならないとわかり、途中で帰りました。一人はイタリア人。私は、問題なくチェックインし、イミグレも通過し、税関も通りましたが、酒、コーヒー、たばこを売っている店は閉店中。コーヒーなど売るのがないからでしょう。ほかのレコード、民芸品、本などの店は開いていましたから。空港内のキューバ人はすべて緑色のキューバ製のマスクをしています。空港に連

れて行ってくれたディアンゴさん（30歳、正式自営タクシー）は、「昨日ひき肉を6パック買った。みんな食料の買い出しに来ていた。鶏肉を売っているのでもなく、わずかひき肉に長い列だった」とのこと。モノがないうえ、買いだめで余計モノが消えます。

トロントまでの機内は、意外なことに5分の1が空席でした。前倒しで出国した人も多かったのでしょうか。25日早朝の便がハバナートロントの最終便です（当面、1か月程度）。機内でマスクをしている人は2割程度。日本人が数人いましたが、みんなマスク。中国人は、その倍はいつもいるのですが、ゼロです。定刻より20分遅れ、小雨降る、雪が積もっているトロント空港に着きました。空港の掃除人、店員など全くマスクをしていません。ちょっと警戒心が足りないのではないかと思います。

◎コロナウイルス対策第2弾発表

筆者が、急遽キューバを去った翌日の24日には、コロナウイルス感染者9人が発生、合計57人に達しました。

この日、キューバ政府は、20日の入国制限措置に続き、対策第2弾として「コロナウイルス予防・管理計画」に基づき、40件の新たなコロナウイルス対策措置を発表しました。今回の制限措置は30日間有効で、状況によっては延長される可能性もあります。主なものは次の通りです。

- 帰国キューバ人は全員指定場所で14日間隔離する
- キューバ到着の旅客全員、特別バスで直接隔離センターに移送する
- 空港での家族の集まりを禁止する
- キューバ帰国者は、手荷物1個、スーツケース1個のみ携行し、隔離センターに移動する
- キューバ人の海外への出国を規制する。人道的理由のみ許可
- 観光客は検疫下に置かれ、外出を禁止する。民泊宿泊者は、観光ホテルに移動する。
- キューバ人の国内観光を禁止、レンタカーを禁止
- 3月23日以前にキューバに到着した人は、家庭で引き続き隔離する。この人々は居住地域の医師が経過観察を行う。
- 隔離地域は誰も訪問してはならない
- 家庭や老人ホームにいる老人は、独居者および住所不定の老人と区別して対処する。
- 必需品の配給を行い、行列を規制する
- 食料生産を強化する
- バス、鉄道、飛行機、個人乗用車による県間の運行を中止する
- 街頭における警察のパトロールを強化する。
- ディスコ、プール、ジムを閉鎖し、ホテルのプールを制限する
- バー、レストランは制限付きで開店、客の間を1メートル以上空ける。違反の場合

は閉鎖

- 大衆組織やあらゆる政府の機関を動員して家庭の訪問を行い、対策の指示を伝える
- 感染の兆候が見られる人は、指定の場所に移るか、医師の監視の下で自宅に留まる
- 学校は一時閉鎖する
- 授業は3週間中止し、できれば4月20日再開する
- 幼稚園は、感染対策を講じて、引き続き開所する
- 身寄りのない子供は、条件がある家庭にあずけられる
- スポーツ活動は中止する
- 3月30日からTVを通じて教育活動を行う
- 寄宿学校の生徒は、即座に家に帰る
- 教師は、学期の再開のための授業を準備する
- 密集を避けるために、学期の再開は段階を経て行う
- ホテルでは、観光客、勤務員への医療監視を密に行う
- 住民への毎日の医療監視を強化する
- 病院における選択的外科手術を中止する。移植、ガン、生命に関し緊急の例の場合を除く
- 病院の患者訪問を中止し、付添を認める
- 薬の取得の証明書の期限を6カ月延期する
- すべての労働で、配転を許可する
- 小学校、特殊学校の子供をもつ母親に、最初の1カ月100%、二カ月目60%の賃金を与える
- 税務署における公式の手続を延長する
- 納税者の税支払い義務を延期する
- 営業活動が影響を受けている自営業に対し、月額納税額の減額を行う

こうした政策が、スピードを持って策定され、国民生活の中で実行されるのは、まさにキューバが革命勝利以後、常に「総動員体制」*にあるからでしょう。

*オスカー・ランゲは、総動員体制について「中央集権化された計画化と指導の方法は社会主義に特有なものでなく、むしろ戦時経済の技術であることを明らかにしている。この戦時経済的方法が社会主義の本質と同一視され、社会主義に不可欠なものと考えられるとき、困難がはじまるのである」と指摘しています。

25日には感染者10人が発生、累計感染者は67人に達しましたが、キューバ人同士の感染は、未だありません。カトリック教会も、教会での活動を中止しました。翌26日には、感染者13人（すべてキューバ人）が発生、累計感染者は80人に達するとともに、2人目の死者が発生しました。ペドロ・コウリ熱帯医療研究所（IPK）に入院していた45歳のロシア人です。糖尿病の基礎疾患がありました。キューバが、コロナウイルス感染者に治療として使用している薬は、キューバと中国が共同開発した「奇跡の新薬」といわれるインターフェロン・アルファ-2B リコンビナント（IFNrec）という抗ウイルス薬です。IFNrec は「最終的に死に至り

そんな患者の重篤化と合併症を防ぐ」といわれています。この日、カリブ海の4カ国に200人のヘンリー・リーブ医師団が出発しました。

キューバ外務省は、キューバの国際医療協力活動を非難に対して、抗議の外交文書を提出しました。本来人道的問題である国際医療協力が、政治的な論争を生み出しているのです。



27日には、最初のキューバ人同士のコロナウイルス感染が発症しました。バラデロのホテルの従業員がイタリア人の観光客から感染し、53人のキューバ人と接触し、キューバ人3人の家族と1人の友人が感染したのです。新たな感染者は、飛躍的に39人（すべてキューバ人、10人は、キューバ人同士）に達し、累計感染者は、119人となりました。2,000人（外国人140人、キューバ人1,860人）が隔離され、31,347人が自宅監察となりました。

この日、航空機の国際線は米国、メキシコからの11便のみが到着しました。

27日、閣僚評議会は、コロナウイルス対策作業グループを設置。各閣僚が参加し、ヒル経済・企画相が主宰します。

ヒル経済・企画相は、国内経済の状態について、率直に次のように説明しました。

「国内経済は、異常な状態となっている。工場、工業、運輸からの供給が麻痺している。一方生産のテンポが遅れており、需要が増えている。顧客は「パニック買い」で通常以上に買い物をしているからである。



コロナウイルスのキューバへの影響は、観光収入が減るだけでなく、観光に供給している生産チェーンに影響する。キューバが輸入していた国からの特定の商品の供給が麻痺しており、輸入が減少している。キューバへの金融、クレジットへのアクセスが、世界的な経済困難で影響を受けている。従い、国営、民間部門双方で生産の水準が、また外国投資が下がっている。このパンデミアがいつまで続くか見通せないで、それに対処しなければならない。さらに米国の経済封鎖が、本年キューバ経済の息の根を止めようと強化されている。キューバの金融へのアクセスを妨害したり、石油の供給を断絶させるために、米国は手を緩めていない。

しかし、キューバは、計画経済システムの下にあり、資源を市場に任せずに集中的に利用できる。国際的な金融機関の指図を受けずにキューバ独自に財政・通貨政策を決定できる。

キューバは、国民のだれも排除しない包摂的な社会政策をとっている」。

また、ベツイ・ディアス国内商業相は、配給制についてつぎのように説明しました。

「すでに4月の物資の供給は、物資が到着しており、配給計画が立てられている。5月の配給計画は、現在作成しているところである。キューバでは、ひとりに1ポンド(0.453kgs)のものを配給する場合、全体で5,200トン以上準備しなければならない。

生活必需品を配給制にする。3月30日よりこれまで自由販売であった衛生用品、石鹼、塩素漂白剤、医療用酸素、薬、根菜類、野菜を配給制とし、全国2,767の配給所で3,809,000家族(国民11,150,000人)に供給する。一人当たり鶏肉1ポンドを補助金なしで追加配給する。家族数に応じて配給量モデルを設定する。輸出が減っており、それに応じた外貨で輸入しなければならない。

公共輸送では、マスクの着用を義務化する。国内の個人による輸送は一時的に中止。国民に移動、他県への移動を自粛するよう呼びかけている。石油使用の量を調整する。職場の配転を進める。民間部門の納税を配慮し、固定納税額の停止と税の減額を行う。国营企業は、成果主義賃金の導入を延期する。価格を監視し、投機を許さない。国营、民間とも値上げしてはならない」。

28日早朝、3人目の死者が発生し、それもスペインから帰国した56歳キューバ人で、初のキューバ人の死者でした。この日、PCR検査は297件行われ、うち20人が陽性でした。累計感染者は139人、感染率は人口10万人あたり換算で1.24%、致死率は2.1%。1,660人が隔離され、うち30人が未成年、1,630人成人。さらに自宅での訪問監察が、6,223,320人に対し行わ



れました。これは、地域のファミリー・ドクターや医学生が各家庭を訪問して、国民一人一人の健康監察を行うものです。その内高齢者は927,056人で、一人暮らし高齢者は、224,059でした。

ディアス＝カネル大統領は、「国の財政問題は悪化し、外貨準備は悪化し、またわれわれは経済封鎖が押し付けている大きな制約に直面している。しかしながら、そうした困難な状況の中で、われわれはキューバ国民の利益のために、また世界の人々のために働いている。現在各国政府の要請により新たに593人の医師団(医師179人、看護師399人、技師15人、うち女性が399人67.3%)が世界で活動している」と状況を説明しました。

29日にはPCR検査が342件行われ、31人が陽性（29人キューバ人、外国人2人）と判明しました。これまで2,007件のPCR検査が行われ、170人が陽性。キューバ人63歳の感染者1人が死亡し、累計死者4人となりました。2,681人が隔離され（外国人91人、キューバ人2,590人）、29,885人が自宅監察下に置かれています。30日にはキューバ政府は、迅速検査（抗体検査）を始めました。15～30分で結果が判明。隔離患者には全員実施し、陽性者は、PCRにかける、陰性の場合、14日の観察を継続としています。この日、感染者16人が発生（キューバ人14人、外国人2人）、累計感染者は186人となりました。キューバ人感染者2人が死亡し、累計死者は6人となりました。2人は、キューバ人75歳、慢性肺疾患、キューバ人63歳、基礎疾患として高血圧、糖尿病をもっていました。315件のPCR件の検査が行われ、PCR検査は累計2,322件となり、2,837人が隔離され（そのうち外国人は73人、キューバ人2,764人。27,139人が自宅監察です。

◎迅速（抗体）検査を開始

月末の31日現在では、世界では、175カ国で感染。感染者数は77万7,799人、死者は37,272人に達しました。致死率は4.7%（感染者100人につき4.7人が死亡）でした。米州35カ国及び15の海外領土では、感染者数は188,743人、世界の感染者の24.2%を占め、死者は3,688人となりました。致死率は2%程度。感染者が最も多いのは（感染者/死者数）米国186,265/3,857人、ついでカナダ8,548/96人、ブラジル5,717/201人、チリ2,738/8人、エクアドル2,240/60人、メキシコ1,094/20人、パナマ1,075/20人でした（数字は厚労省ホームページより、4月1日現在のもの）。

こうした世界的な状況の中で、キューバでは累積感染者212人、死者は6人、致死率は2.8%でした。隔離観察者が2,742人おり、そのうち感染容疑患者が1,140人、自宅監察者が26,278人、12人が退院していました。この日の新たな感染者は26人、PCR検査件数は444件で、感染者26人のうちキューバ人1人、外国人1人、8人は、外国での感染、10人はこれまでの確認感染者からの感染、7人は外国人観光客からの感染です。なお、この日から、一日当たり10万件の迅速検査を行う準備が整いました。

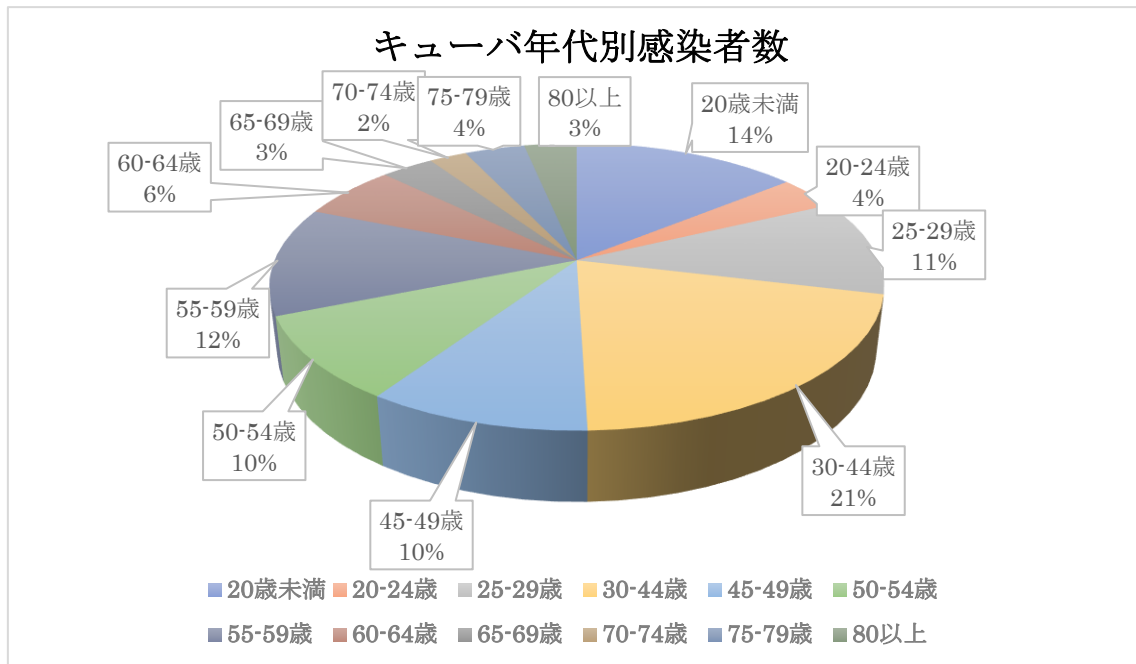
212人の感染者のうち、キューバ人は182人、外国人は30人。182人のうち94人51.6%は、外国がらみで感染。この感染者94人のうち、24.7%は外国人陽性者もしくは外国から帰国したキューバ人陽性者との接触。35人、19.2%は、キューバ旅行者人及び外国人旅行者と14日以前に接触したもの。4.4%は、地域の2つのイベントで外国から帰国したものとの接触。感染経路はすべて明らかにされ、未だクラスター感染も看取されませんでした。

年代別感染者数は、若者の感染が少なくないことを示しています。

212人の感染者のうち、キューバ人は182人、外国人は30人。182人のうち94人51.6%は、

外国がらみで感染。この感染者 94 人のうち、24.7%は外国人陽性者もしくは外国から帰国したキューバ人陽性者との接触。35 人、19.2%は、キューバ旅行者人及び外国人旅行者と 14 日以前に接触したもの。4.4%は、地域の 2 つのイベントで外国から帰国したものとの接触。感染経路はすべて明らかにされ、クラスター感染も看取されませんでした。年代別の感染者数（グラフ 3）を見ると、29 歳以下の感染者が 29%もあり、若者への感染が決して少なくないことを示しています。

（グラフ 3 キューバ年代別感染者数）



出所：キューバ MINSAP 記者会見資料から筆者作成

	人数
20歳未満	30
20-24歳	8
25-29歳	23
30-44歳	44
45-49歳	21
50-54歳	20
55-59歳	26
60-64歳	13
65-69歳	7
70-74歳	5
75-79歳	8
80以上	7

県別感染者数上位県は次の通りです。ハバナを始め、観光地を抱える県の数字が高く、観光でキューバを訪問する外国人からキューバの感染が拡大していったことが分かります。

- ハバナ 61 人
- ビジャ・クララ 30 人
- マタンサス 19 人
- サンティアゴ・デ・クーバ 15 人
- ピナル・デル・リオ、シエゴ・デ・アビラ。サンクティ・スピリトゥス 14 人

この日、ラウル共産党第一書記の出席のもとに政治局会議が開催され、コロナウイルス対策の第3弾として、230の新たな措置が導入することを決定しました。それらは次のようなものです。

- 観光外国船舶のキューバ国外への退去
- 定期便、チャーター便すべての航空機のキューバ寄港中止
- メーデーの行進、全国小農協会（ANAP）大会開催中止
- 病弱な労働者は自宅待機
- 早朝のケイタイ電話料金の値下げ
- 国際チャージ・サービス期限（4月6日～11日）の30日の延長
- 検疫期間の国内長距離電話料金の値下げ
- カードによる電話料金の25%値引き

◎徹底した外出自粛指示

月が明けた4月1日、隔離観察者2,320人、うち1,384人感染容疑、213人確認感染者。25,920人自宅監察者。PCR検査576件実施し、うち21人陽性。これまで3,342件のPCR検査を実施。21人陽性のうち、キューバ人20人、外国人1人。ポルタル公共保健相は、「社会的距離を保つこと、市民は街に出ることを避け、他人の訪問も許可せず、密集を避け、子どもや大人が家を出ないように」と強く指示しました。

この日、メキシコ銀行（中央銀行）は同国の2020年の実質経済成長率が、2月時点では0.91%のプラス成長が見込まれていま

ましたが、その後のコロナウイルスの拡大で、マイナス3.99%になるとの見通しを示しました。新型コロナウイルスの感染拡大で工場の稼働が停止しているほか、ショッピングセンターや飲食店も活動を縮小していることが響いています。3月22日、筆者を訪問したベテランのキュー



バ人エコノミストは、コロナ感染により、観光客の入国の断絶が数カ月続くことから（観光

収入は 15 億ドル以上減収)、「今年のキューバの経済成長はマイナス 4~5%ではないか」と不安そうに予測していました。1月にパリクラブ諸国へのリスク債務の返済 33,000 万ドルは、不可能となったというのが、キューバ人エコノミスト達の共通した意見でした。また経済の停滞を招いている原因の一つである二重通貨・三重交換レート of 解消も、本年末までに行うと政府が述べていましたが、これも不可能となるでしょうか。

翌 2 日、新たな感染者 36 人発生 (キューバ人 35 人、外国人 1 人)、累計感染者は 269 人となりました。この日まで累計 6 人死亡、15 人退院。PCR 検査、昨日 803 件行われ、うち 36 人陽性でした。これまで 4,145 件の PCR 検査を実施。隔離者 3,241 人、うち 518 人感染容疑者、247 人確認感染者、6 人が危機的、2 人が重篤です。26,587 人が自宅監察下にあります。前日のポルタル公共保健相の外出控えるようにとの指示が功を奏し、ハバナ市では、買い物をする市民以外は、街頭は人通りがまばらになりました。

◎ハバナ市に初めて隔離封鎖地区を設定

3 日には新たな感染者が 19 人発生、累計 288 人となりました。累計 6 人死亡、15 人退院。8 人危機的、3 人重篤、隔離者 3,343 人、うち 602 人感染容疑、288 人確認感染者。18,314 人自宅監察者。PCR 検査、昨日 1,057 件、うち 19 人陽性。これまで 5,202 件の PCR 検査を実施 (人口 100 万人あたり 319 件)。19 人中キューバ人 18 人、外国人 1 人。この日キューバに商業航空到着はゼロと発表されました。

4 月 3 日夜 8 時から、ハバナ市西部のベタードのエル・カルメロ地区を 8 人の感染者がでたので、隔離封鎖地区として市民の出入りを禁止。キューバで封鎖地区が出たのは初めてです。

翌 4 日には、新たな感染者 32 人発生、累計 320 人となりました。2 人 (キューバ人男性 74 歳、キューバ人女性 71 歳) 死亡、累計 8 人死亡、15 人退院。8 人危機的、3 人重篤 隔離者 1,887 人、うち 1,291 人感染容疑者、295 人確認感染者。16,306 人自宅監察者。PCR 検査、昨日 1,201 件、うち 32 人陽性。これまで 5,234 件の PCR 検査を実施。陽性者 32 人全員キューバ人と発表されました。

モノ不足とコロナ問題の混乱を利用して、全国で食料の盗難、転売が起きており、検察の取締りが厳しく行われています、ハバナでは、倉庫から、転売のためマスク 455 箱、4,550 枚、医薬品を盗む盗難が発生しました。逮捕された犯人は、禁錮 3 年~8 年の厳罰です。

5日には、新たな感染者30人が発生、累計350人となりました。1人（キューバ人男性38歳）死亡、累計9人死亡、18人退院。8人危機的、4人重篤 隔離者1,718人、うち1,291人感染容疑者、18,434人自宅監察者。PCR検査、昨日764件、うち30人陽性。これまで5,998件のPCR検査を実施。陽性者キューバ29人、外国人1人（米国人）。17人の感染者、これまでの確認感染者と接触、9人外国人旅行客と接触、2人感染経路不明と発表されました。今回、初めて感染経路が不明な感染者が2人出ました。これまで累積感染者数の倍加速度も、4月6日現在7日程度かかっており、キューバが設定した感染の第二段階に差し掛かっているように思われます。ドゥラン MINSAP の流行病全国局長は、これまでの対策は、感染のピークを避けるものであったが、今後一ピークが来るかどうかは言えないと慎重な態度をとりました。

この日、キューバは、予防ホメオパシー（同種療法）薬「PrevengHo-Vir」をピナル・デル・リオ県、ハバナ市で、高齢者の過程、老人ホーム、精神病院、精神病理センターに配布して使用していることを発表しました。この薬は、感染を防いだり、これまでのコロナウイルス対策に代わるものではなく、ウイルスに対する抵抗力をつけるものと説明されています*。



*ホメオパシー（同種療法）は、さまざまな見解があり、日本学術会議は2010年8月24日、ホメオパシーの効果について全面否定し、医療従事者が治療法に用いないよう求める会長談話を発表しています。しかし、中南米では使用されている国があります。

◎感染拡大の第2段階に入る

6日になると、新たな感染者46人発生、累計396人となりました。2人死亡（キューバ人女性101歳、キューバ人男性68歳）、累計11人死亡、27人退院。隔離者1,752人、うち1,182人感染容疑者。15,762人自宅監察者。PCR検査、昨日71,056件、うち46人陽性。これまで7,054件のPCR検査を実施。陽性者キューバ46人、全員キューバ人。1人外国で感染、31人既往の感染者と接触、13人外国人旅行客と接触。1人感染経路不明。致死率2.7%、3人退去と発表されました。

この日現在キューバ滞在の外国人は、15日以内の滞在者皆無となりました。12,744人の外国人旅行者が滞在していますが、うち5,673人は外国人、7,071人はキューバ国籍の旅行者です。民泊居住者は、減少し996人。

世界では180カ国で1,244,421人の感染者、死者68,976人、致死率5.54%が報告されており、

米州では感染者数 386,755 人、死者 11,137 人、致死率 2.88%が報告されています。

ポルタル公共保健相は、「キューバは、限定的な地域感染の段階、感染拡大の第 2 段階に入った」と述べました。この段階は、感染地帯からの旅行者との接触を確定できず、またわが国の施設あるいは機関において小規模の密集に限定されるときに宣言される、と説明。この限定的な地域感染の段階に応じて、新型コロナウイルス対策第 4 弾として、社会的ディスタンスを確保するため一連の措置が発表されました。それらは、

- ・ 飲食店での酒類の販売の停止。ただし持ち帰りは引き続き許可。
- ・ これらの飲食店では、密集を避けるためサロンのサービスを止め、食料は持ち帰りのみとする
- ・ 都市の乗客輸送も、バスの乗客数を制限する
- ・ 食料生産などの国の経済活動に大きく影響するものは維持しつつ、勤務活動も必要不可欠なものに留めるよう点検する。
- ・ 人びとの生活を危険に貶める不法な行動、行為は厳重に取り締まる。

7日には、新たな感染者が一举に増え、61人発生、累計457人となりました。1人死亡（キューバ人62歳女性死亡、シエゴ・デ・アビラ在住）、累計12人死亡、27人退院。10人危機的、6人重篤、隔離者1,732人、うち1,061人感染容疑者。9,414人自宅監察者。PCR検査、昨日1,187件、うち61人陽性。これまで9,410件のPCR検査を実施。陽性者キューバ457人、キューバ人60人、外国人1人。5人外国で感染、42人既往の感染者と接触、13人外国人旅行者と接触。1人感染経路不明。致死率2.6%、3人国外退去と発表されました。

世界では180カ国で1,316,988人の感染者、死者74,066人、致死率5.62%、米州では感染者数420,943人、死者12,678人、致死率3.01%が報告されています。ちなみにラテンアメリカでは、コスタリカ（人口5,048千人）が感染者数467人、死者2人、PCR検査数（千人当たり）1.18回、エクアドル（人口17,374千人）感染者数3,747人、死者191人、PCR検査数0.9回、ウルグアイ（人口3,462千人）、感染者数406人、死者5人、PCR検査数1.61回、キューバ（人口11,333人）感染者数457人、死者12人、PCR検査数0.83回。キューバの感染者数が低いのが目につきます。感染可能者の隔離政策、家庭・職場訪問監察など、社会が一体となって予防に取り組んでいるからでしょうか。

ポルタル公共保健相は、コロナ感染発症28日経過後の現状を次のようにまとめています。

隔離患者1,732人、1,061人感染容疑者。9,414人自宅監察者。457人感染者（キューバ人422人、外国人35人）、うち男性52.75%。感染率1,000人につき4.07人。死者12人、致死率2.6%

422人のうち116(27.5%)人外国で感染、306(72.5%)人キューバで感染、300人は外国人あるいは外国から帰国したキューバ人で、これまでに感染が確認されたキューバ人。6人が感染経路不明です。

こうしたことから、キューバは、感染拡大の第二段階にはいりました。これまで6件の地域感染、クラスター感染があったと報告されています。①3月27日バラデロのホテル勤務のキューバ人汚染。②4月6日ピナル・デル・リオのカミーロ・シエンフエゴス地区。③4月3日ハバナ市のエル・カルメロ地区、④4月6日シエゴ・デ・アビラのプロレンシア、⑤4月5日カマグエイのフロリダ、⑥4月6日オルギンのヒバーラ。これまでの医療関係感染者の感染は、医師14人、看護師8人、技師人、救急車運転手1人。合計25人です。

感染拡大の第2段階に入って、ポルタル公共保健省は、この段階での対策を次のように絞っています。

- 従来の措置の継続
- 訪問監察の強化
- 集中看護の病床数の増加
- PCR検査機関の増加と検査数の最大限の増加
- 住民への詳細情報の提供と住民のコロナ対策への積極的参加

8日には、ハバナ市のセルロ基礎行政区が午後3時より隔離地域となりました。拡大の第2段階に入って、キューバは厳戒態勢が敷かれています。外貨が不足し、経済が停滞しているところに、米国の経済封鎖・制裁が強化され、さらにコロナウイルス問題で外貨収入が大きく減るとともに、経済活動が著しく縮小し、経済は危機的な状況にあります。キューバ経済がどのような進展をとげるか予断を許しません。

(2020年4月9日 新藤通弘)